



TL0の組織メカニズムと技術移転パフォーマンス

坂井, 貴行

(Degree)

博士 (経営学)

(Date of Degree)

2025-09-25

(Date of Publication)

2027-09-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第9290号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100498330>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



学位論文審査要旨

氏名 坂井 貴行

論題 TLO の組織メカニズムと技術移転パフ
 ーマンス

審査 令和 7 年 9 月

神戸大学

論文内容の要旨

本論文は、大学の技術移転機関（Technology Licensing Organization: TLO）の技術移転パフォーマンスを高める組織メカニズムについて、組織レベル（経営資源）と組織メンバーレベル（マネジメントチームの属性）の2つの視点から検討したものである。大学の研究成果を実用化する過程では、TLOが重要な役割を果たす。しかし、TLOのマネジメントについての研究はまだ少なく、TLOの技術移転パフォーマンスを高める組織メカニズムは、未だ明らかになっていない。坂井氏の論文は、この研究ギャップを埋めることを試みている。

本論文は6つの章から構成されている。

第1章「はじめに」では、上記の問題意識と研究の目的が簡潔に説明されている。第2章では、先行研究をシステムレベル、組織レベル、個人レベルの観点から整理したうえでその成果と課題を明らかにし、本研究のリサーチクエスションと分析枠組みを提示している。第3章では、TLOの経営資源要因と技術移転パフォーマンスに焦点を当て、資源依存理論および資源ベース理論の視点から、大規模研究大学と地方大学という2大学を対象に、大学・研究者・TLOの属性と技術移転パフォーマンスとの関係性について比較分析を行っている。第4章では、TLO経営チームの職務経験と技術移転パフォーマンスに焦点を当て、エージェンシー理論の枠組みに基づいて、大学・企業・TLOにおける職務経験の違いが技術移転パフォーマンスに与える影響を検討している。第5章では、第3章、第4章の分析結果をもとに、大学の研究成果の商業化によるイノベーション創出の促進に向けて、日本におけるTLO経営の在り方や戦略的方向性について理論的・実務的な観点から考察している。最後に、第6章では、本研究の結論および学術的・実務的貢献を整理し、技術移転パフォーマンスの向上に資する外部型TLO経営への提言を提示している。

論文審査の結果の要旨

本論文の貢献としてもっとも重要なのは、日本の TLO の詳細データをもとに、TLO 経営チームの職務経験と技術移転パフォーマンスの関係を実証的に明らかにしたことである。本論文は、TLO 経営チームに大学のための職務経験者が存在することが、技術移転パフォーマンスに影響を与えることを示したが、その理由を、エージェンシーコストの視点で解釈している。すなわち、TLO の技術移転パフォーマンスを向上させるためには、マーケティング能力やビジネス能力のみならず、大学上層部・大学知的財産本部との調整や組織間のコンフリクトを解消する役割が重要であるというのである。これらのことを踏まえ、審査では、本論文は TLO の技術移転パフォーマンスを説明する理論を発展させたと評価された。

また、本論文は、外部型 TLO の人材育成と流動化を促進する施策や、日本の大学の技術移転の在り方を再検討すべきという 2 つの政策的提言も提出している。審査においては、これら実践的な貢献についても評価された。

本論文に課題がないわけではない。審査においては、ナショナルイノベーションシステムに関する議論との接続が不十分であること、データセットについて精緻化の余地があること、統計的な分析について精緻化する余地があることが指摘された。しかし、審査においては、これらは今後の研究の発展を示唆する課題にすぎず、本論文の学術的な貢献を損なうものではないと判断された。

以上の理由から、審査委員は、本論文の著者が、博士（経営学）の学位を授与されるに十分な資質を持つものと判断する。

令和 7 年 9 月 3 日

審査委員	主査	教授	宮尾 学
		教授	原田 勉
		准教授	原 泰史